

第43号

2020年 3月31日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kbsinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680



『すべての人が 向き合い、 大切にし合い、 豊かになる』  
真生きらきら保育園 園長 橋本 美紀代



陽の光から春の気配を感じる季節となりました。保育園では年長児が卒園式を終えて、また新しい年度を迎える準備をしています。この時期、子ども達とお別れは悲しいですが、新しい出会いに期待でわくわくするうれしい季節でもあります。

今年1月17日は阪神淡路大震災から25年を迎えました。保育園では「絆の日」として避難訓練を実施するとともに、阪神淡路大震災についてお話をし、子どもたちに自然災害の恐ろしさや、どうしたら自分のいのちを守るができるのか、そして日頃からの助け合いが大切なことを伝えました。私は、震災時、灘区の保育所で勤務していました。市内でも灘区は被害の

大きい地域でした。幸い入所児童は無事でしたが保護者で亡くなられた方がいました。保育所はその日から避難所となり、しばらくして園庭には自衛隊のお風呂が設置されました。また事務所は金沢市からの医療チームが医療の応援に来てくださいました。保育所が避難所になりましたので、職員は児童館での保育受け入れ、区役所の雇証証明発行のお手伝い、全国からいただいた救援物資の仕分け作業、そして王子スポーツセンターは被災されて亡くなられた方の遺体安置所となり、問い合わせにいられた遺族の方の対応のお手伝いもしました。本当に保育現場から離れているいろいろな経験をさせていただきました。

当時、交通機関は分断されてしまったので、職員はそれぞれの場所まで、途中までは交通機関を使って、後は徒歩で通勤しました。神戸市内の空は救援のための自衛隊のヘリコプターが一日中飛んでいました。毎日無事に終えることを祈りながら生活していた記憶が蘇ります。その後、全国各地で大きな災害が起こった際には携帯電話による災害時緊急速報が発信されるようになりました。

阪神淡路大震災の当時は、携帯電話の普及はありませんでした。職場の連絡は自宅の電話で受けてそれぞれの職場に向かっています。避難所では伝言板が貴重な伝達手段となりました。「〇〇県から来ました。両親を探しています。」「〇〇区に住んでいた□□は元気です。」「紙おむつが無くて困っています。」「等々、伝言板にはぎっしりと伝言メモが張られています。今では、携帯電話は生活の中で必需品となっています。

震災時の経験を通して、毎日普段通りに生活することがどんなに幸せなことかを実感しました。今後も豪雨災害や地震災害が心配されますが、災害時の対応については常に想定し、未来ある子どもたちのいのちを守りたいと思います。

保育園の保育目標は、「すべての人が 向き合い、大切にし合い、豊かになる」です。神様がすでに子どもたちを愛し、成長させてくださるのですが、「神様がいつも側にいてくださる」「生まれてきてよかった」「人は信頼できる」と信じる大人との出会いの中で、子どもたちにもその心はより確実に育つと信じています。私たち保育者自身が、自らの保育を振り返り、気づきを大切にしながら、子どもとともに成長できるような保育を進めて参りたいと思います。

子どもを取り巻く環境として虐待報道等、悲しい事件が後を絶ちません。小さないのちを守ることも保育者としての使命と感じております。子育ての楽しさとしんどさは表裏一体です。保護者の方が子育ての楽しさを実感できるように子育てのお手伝いをさせていただきます。思っております。

保育園では毎週水曜日に園庭開放を実施しています。園庭で在園児と一緒に遊ぶ中でいろいろな出会いがあり、在園児も地域の子ども達も一緒に楽しい時間を過ごしていただきたいと思っております。地域の皆様、関係機関の皆様、引き続きご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



# 退所する子どもから

## F・Nくん

私は神戸真生塾での思い出が沢山あります。その中の3つを書きます。1つ目は琵琶湖キャンプです。昔はよく年上の人に泣かされたり面倒見てもらったりでしたが、成長していくにつれて自分が面倒を見る側となりキャンプを盛り上げていく側になっていました。様々なプログラムがあり毎年楽しかったのを覚えています。

2つ目はクリスマス会です。私は聖誕劇の役はほとんどしたことがありません。どの役も覚えているほど印象深いです。他にも中高生の出し物をしたり、去年は施設長と出し物をしたりととてもクリスマスに力を入れました。

3つ目はボランティア活動です。私は多くの活動に参加しました。リレーフォーライフ、教会キャンプのキャンプヘルパーなどその他にもたくさん参加させてもらいました。そこでは人

との接し方、子どもとの関わり方、話し方など神戸真生塾にいたからこそその経験だと思っています。

また、就職に関しても色々な人にお世話になりました。施設長やお部屋のお兄さんお姉さん、その他の大人にも支援してもらい、多くの人に支えられているなど感じました。神戸真生塾の生活はとても長く子どもとのケンカや大人とのトラブルもありました。沢山トラブルが多かったけどいざ卒業となるととても寂しいです。就職先でも長く仕事を続けられるように頑張りたいです。僕と仲良くしてくれた人、優しく接してくれた職員さんありがとうございます。

## U・Nちゃん

十八年間、この神戸真生塾という児童養護施設で過ごしてきた日々は、私の中で一生忘れることのできない濃い時間だったと振り返り感じています。

色々な状況の子ども達と過ごす中で、もちろん辛い事やしん



どい事もありました。でも、その分、この施設にいたからこそ出会えた人や出来た経験がたくさんあるんだということを通して感じます。

退所を間近に控え、色々な出来事や思い出が頭によぎる中、施設行事のクリスマス会や納涼大会、琵琶湖キャンプなどといった行事ごとは毎年楽しみにしていた記憶があります。

思春期となり大人に抵抗していた時期もありました。いっばい不安や心配もかけました。小さい時からこの神戸真生塾に居るからか素直に「ありがとうございます」「ごめんさい」という自分の気持ちや伝えられないことがたくさんありました。「ごめんさい。」

これからは一人で暮らしていくことで、正直不安でしかありません。でも、自分なりに頑

張っていかうと思っています。今までお世話になったことは一生忘れません。ありがとうございます。

これから社会人として頑張っていくので応援お願いします。

## Y・Mちゃん

私は四歳の時に入所してから十四年間、神戸真生塾で過ごしてきました。四歳ながらも初めて真生塾に来た時は不安で不安で仕方なかった事を今でも鮮明に覚えています。この十四年間、辛かった事もありました。でも今思い返してみれば楽しかった事の方が多かったと思います。

みんなと行く琵琶湖キャンプやお部屋の子たちと一緒に映画を見に行ったりご飯を食べに行ったり。逃げ出したいと思った事も何度かあったけど、なんだかんだ真生塾にいて安心するしやっぱり自分の家は真生塾しかないなって思っています。

四月からは自分の夢に一つでも近づくことができるよう大阪にある専門学校で語学を学びます。死ぬほど頑張った奨学金、何度も職員のお姉さんと練習した面接。今までの努力が報われるようにこれから頑張りたいと

思います。

最後に、神戸真生塾で過ごした十四年間は自分にとって大切に忘れられない十四年間です。十四年間お世話になりました。本当に感謝しています。ありがとうございました。







# クリスマス祝会

2019年のクリスマスも皆様と共に、イエス・キリストのご降誕をお祝いする事が出来、感謝申し上げます。

神戸真生塾のクリスマス会と言えば、聖誕劇。今年もアンケートを取り、配役を決めましたが、希望が叶ったり、そうできなかったり、悲喜こもごものスタートでした。子ども達の自主性を伸ばしたい思いから、出来る事なら注意をせずに練習を行

いた。そう考えていますが、実際には、思う通りばかりではありませんでした。

そんな中で本番当日を迎えましたが、さすが神戸真生塾の子ども達。こちらの心配を消してくれる様に、緊張しながらも一生懸命演じる事が出来ました。祝会では、乳児院の子ども達の可愛い演目、楽器遊びを見せられました。

毎年有難うございます。今年も教員合唱団の皆様による、素晴らしい歌声を披露して下さいました。いつも同じ事をやるのではなく、毎年子ども達を楽しませてくれる様にと、考えて下さる人生の先輩方を尊敬しています。

幼児の子ども達による、歌遊び。練習では上手く出来ていた子どもが、リハーサルで皆の前で行うと、緊張で出来なかった。本番ではどうか？と不安もありましたが、職員だけでなく、

来客された皆様からも拍手を頂ける姿を見せてくれました。

そして、中高生有志による歌の出し物。出だしの仮装メンバーの中になんと、施設長が参加。体を張って会場を盛り上げてくれました。もちろん子どもたちもしつかり歌ってくれました。

最後に皆で「ありがとうの花」を合唱しました。「ありがとうって言ったら、みんなが笑ってる。その顔が嬉しくて、何度もありがとう」という詞の歌です。神戸真生塾は沢山の方々に支えられ、子ども達の養育支援に当たる事が出来ています。そんな皆様方に少しでも感謝の気持ちが届く事、届けたい思いで合唱しました。また来年も「ありがとうの笑顔」で、クリスマスを迎える事が出来る事を楽しみにしています。

(網谷 仁志)



## 2019年度 行事報告

第52回夏休み子ども料理指導の会

(神戸市生活指導研究会)

9月 野球観戦(ゴールドマン・

サックス証券株式会社)

リレーフォーライフ

10月 アイススケート(神戸

ポートルイオンズクラブ)

11月 オリックスファン感謝デー・

Bsファンフェスタ2019

(オリックス宮内財団)

秋の子ども会

12月 もちつき大会(神戸サウナ

えほん劇場「あかずきん

ちゃん」観劇

(株式会社出版ワークス)

クリスマス祝会

お餅つき

1月 劇団四季「こころの劇場」

(三菱UFJファイナンシャル

グループ)

第12回KOBEM夢・未来号・

沖繩(KOBE三宮・ひと

街創り協議会株式会社

神戸センタープラザ)

2月 キツザニア甲子園(三井

住友海上スペシャルナイ

ト(三井住友海上火災

保険株式会社)

卒園卒業お祝い会

3月 児童育成キャン

パ(ライオンズ国際協会)

カッタボランティア

(オリックス宮内財団)

アベストコーポレーション

関西フィルハーモニー管

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

1月

《乳児院 真生乳児院》

退所後の育ちを見つめて

家庭支援相談員 川本 真美

乳児院で生活している子どもは、いずれは次の養育環境の中で生活することとなります。産前産後からの途切れない支援、パーマナンスーや愛着関係の重要性が訴えられている中、アフターケアにどう取り組むかはとても重要と言えます。

週末になると、当院は、懐かしい顔ぶれの子も達で賑わいます。かつて生活していた子どもが、いつでも遊びに来られるようにという思いから、ご家族と相談しながら来院の受け入れを随時行っています。退所時に、どのような支援が必要かご家族と相談のもと、アフターケアについて提案をします。主に、アフターケアは、養育上の相談に応じながら行事の参加、家庭訪問や個別心理療法の実施、在宅での育児支援、病院受診時の同行フォローや保育園の通園フォロー、ショートステイの送迎等

そのご家族の必要性に応じられるよう心がけています。そして、かつて生活していた子どもがいつでも立ち寄れるように、当院での来院の受け入れを行っています。当院の送迎で遊びに来る場合やご家族の送迎で来院する子ども、その家庭によって頻度も受け入れの形も様々です。来



院した子どもは、かつて生活していた居室で他児や養育者と一緒にごすごします。子どもは、保育園での様子を話したり、新しく覚えた歌を披露したり、歩行が出来るようになった姿を見せる等、子どもの成長を感じる喜びの時間となります。子どもの育ちの発見は、ご家族に伝えま

す。「今日、歩いているのを見ました」「そうなんですよ、急に歩き出して危なくて目が離せません」と、笑顔で話される等、成長を喜び合う姿勢を大切にします。ご家族への支援は様々ですが、ご家族にとっても退所後も当院と繋がっていると感じられるような関係性を大切にしています。また、神戸真生塾へ措置変更となった子どもとのつながりも大切に、連続ケアとして週末に当院での宿泊を両施設で計画し受け入れる等を行っています。



乳児院で生活する時間は、子どもにとって人生の出発点である大切な時間です。そして、その後の長い人生において、様々なライフイベントも起こり得ます。入所中の目の前にいる子どもの育ちばかりに意識が向いてしまいがちですが、退所後の子どもがどう生活し、成長していくのかを思い描きながら子どもやご家族と関わっていきたいと思います。

2019年度 行事報告

四月 お花見

五月 いちご狩り

五月 こどもの日

五月 創立記念日

六月 合同遠足

七月 七夕

七月 プール遊び

八月 琵琶湖キャンプ (養護)

八月 納涼大会

八月 デイキャンプ

九月 合同運動会

十月 ぶどう狩り (市乳児連盟)

十月 院内運動会

十一月 人形劇合同交歓会 (市乳児連盟)

十一月 七五三

十二月 収穫感謝祭

十二月 クリスマス祝会

一月 お餅つき

二月 お正月

二月 節分

三月 ひなまつり

毎月 お泊り保育

お誕生日会

お喰い初め



# 「なかよし保育」 子どもの成長を繋いでいくために

山本 紗恵子

私たち職員は家庭生活の経験が必要だと思われ子どもを対象に、月に一度程度家庭の日常を経験する事を目的とした宿泊体験を「なかよし保育」と呼称しています。

現在、乳児院から養護施設に移行したS君と「なかよし保育」を通じて交流が続いています。保育園から帰ったS君を迎えに行き買い物へ出掛けます。「今日の晩御飯何が食べたい?」「〇〇が食べたーい!」や夕食の用意を始めると「僕もなんかお手伝いする!」と何気ない会話のやりとりがあります。また、靴下や靴を履く事が苦手だったS君も、出掛け



る用意を促すと靴下と靴を履いて玄関で待っている姿が見られるようになってきました。

乳児院で一緒に過ごしてきたからこそ見えてくるS君の成長は、養護施設へ移行後も交流が途切れることなく養護職員と共に成長を見守ることができているからだと思います。

「なかよし保育」は、子ども達が自分の生い立ちを振り返る時に職員が子どもの成長を温かく見守っていた事が伝わる経験になると信じています。



## 子どものつぶやき

★公園へ遊びに行く途中にあったお地藏さんに両手を鳴らして「いい子にしてください。」と。思わず頭をなでてしまいました。  
(5歳男児)

★「ネコちゃんもかくれんぼしてるで〜」見ると車の下に猫がいました。  
(5歳男児)

★「この前モコモコ丼食べてん!」それはロコモコ丼だよ。  
(A君・6歳)

★「ハッピーバースデー〜と歌うNちゃん。お誕生日が待ち遠しいね!」  
(Nちゃん・4歳)

★夕食時、お皿に盛られたピーマンを見てMくん、「これ食べたからお姉ちゃんよりもおつきくなれる?」ご飯もりもり食べて大きくなるうね。  
(M君3歳)

★床を拭いているとR君の足にあたる。すると「R君の足も消えちゃうやん」だって。  
足まで拭き取らないよ。  
(R君・3歳)

★「威風堂々」という歌のタイトルを見て、「なりかぜどうどう?」ってどんな歌?」だって。  
(10歳女児)



《認定こども園》  
真生きりぎりぎ保育園

### 伝えることの大切さ

園長 橋本美記代

1月17日は「絆の日」として避難訓練を実施するとともに、阪神淡路大震災について話をしました。昼食は園庭で豚汁の炊き出しをしました。5歳児は、東遊園地の「希望の灯り」まで歩き一日を通して、震災について伝えました。

翌日、保護者の方から「昨日は家に帰ってから、避難訓練や昼食の様子を教えてくださいました。子どもがとても真剣な顔で話していたので驚きました。」とお聞きしました。私たち保育者は、震災のことをどこまで伝え、いのちの大切さをどのように伝えていくのかと考えながら、毎年この日を迎えています。小さな子どもへの心に響くように伝えることの大切さを感じました。

### 子どもの様子

〜2月園だよりから〜

#### みかんぐみ（2歳児）

暦の上ではもうすぐ立春とは言え、まだまだ寒さが続いていますね。みかんぐみの子どもたちは、寒さを気にすることなく、園庭でも元気に遊んでいます。子どもたちと、寒さの中で小さな春の訪れを見つけていきたいと思えます。

年明けの正月あそびの会では、グループのお友だちと福笑いを楽しみました。クラスでは、ビニール袋で作った風をとばして遊びました。風をうけ、大きく膨らむ風を見て、大興奮の子どもたち。何度も後ろを振り向きながら、全力で走っていました。また、1月17日には絆の日に参加しました。今年はおろん組のお兄さん・お姉さんに手をつないでもらって、自分の足で歩いて山の手小学校まで避難することができました。昼食時には、いつもと違う雰囲気不思議に思い、「なんでなん？」とその理由を理解しようとしていました。大人も子どもも、いつもの日常を過ごせている幸せを感じ

るとともに、防災への意識を高めることができた貴重な一日でした。

その他、みかんぐみでは、1月から「ばんのうた」や「こねこのばんやさん」という歌を歌い始めました。そこからあそびが広がり、最近ではパン屋さんごっこを楽しんでいる子どもたちです。お店にパンを並べて「いらっしやいませ〜」と呼び込みをしたり、「これください〜」とやりとりをしたりする姿がとても可愛らしいです。友だちとの関わりや言葉のやりとりを楽しむ機会をたくさん作りながら、ごっこあそびの会に向けた準備をしています。

坂東 遥  
頼光 彩子



#### りんごぐみ・めろんぐみ

（4・5歳児）

厳しい寒さが続くこの頃。子どもたちは、ひんやりとした空気を肌で感じたり、白い吐息を吐いたり、小さい体で季節を感じながら過ごしています。保育園では、子どもたちの元気な声と笑いに溢れ、不思議と寒さを忘れてしまいます。

今月から午前中は、りんごぐみとめろんぐみに分かれて別々の部屋で過ごしています。来月のごっこあそびの会に向けて、活動が本格的になり、覚えた劇中歌を歌ったりして楽しみながら参加しています。また、全員でうたう歌もとても上手になってきています。特にサビの部分がお気に入りです。お部屋でもよく口ずさんでいますよ。

配役は子どもたちで話し合っ

ち。やはりどこかライブル意識があるようで、「今日は〇〇してんで！」「りんごさん（めろんさん）だけでするんやで！」などと、お互いに行った活動を教えあったりしています。互いに良い刺激を味わいながら、残り数週間、クラスみんなで楽しみながら、ごっこ遊びを進めていきたいと思っています。

今年度も残りわずかとなりました。1日1日を大切に、思いきり楽しんで過ごしたいと思えます。

請川まり子  
児玉 麻奈





ありがとうございました

寄付並びに見学招待ご芳名

敬称略

(二〇一九年六月一日〜二〇二〇年一月三十一日)

寄付金

- P & G
- 安西真由美
- 吉賀京子
- 吉田商店
- 協同食品(株)
- B・スナイダー
- 南林寺箕村智法
- 森岡務
- 長寿会
- フライントラロジスティクス(株)
- 神戸ポルトワイズメンズクラブ
- 神戸屋精肉店
- 神戸グロースバルチャリ
- ティーフェスティバル
- 檜田政板
- 広瀬俊道
- 神果神戸青果(株)
- ヒデ、エーケーエーシックス
- 佐々木珠紀
- (株)USJ
- チュチュアンナ
- 平尾泰枝
- フリッツアモリスジャパン
- 合同会社
- ヤス電工業(株)
- 全国シヤメリー協同組合
- 日本鏡餅組合
- モロゾフ(株)
- (株)ユーハイム

寄付物品

- 大社貴子
- 岡部正範
- 細見英信
- 吉田商店
- 宮本美恵子
- 住元義則・淳子
- 稲垣宜子
- 綿谷栄子
- 本城智子
- 小沢医院
- 数田紀久子
- 山の手小学校
- 中村悦子
- 岡本美智子
- 特定非営利活動法人  
オレンジクロス
- 中村淳子
- 路上ライブ匿名希BOW
- 神戸協会いずみ幼稚園
- 社会福祉法人イエス団
- 児童養護施設ガーデンロイ
- 乳児院ガーデンエル
- 人見明美
- 家庭養護促進協会
- 安西真由美
- 大江慎一
- 藤井秀彦
- 平尾和輝
- 神戸ポルトワイズメンズクラブ
- 沖野世津子
- 高森紀子
- 李福美
- 南和光
- 藤井祥子
- 日本キリスト教団天満教会あしなが会
- 板谷貴司

- 時岡三恵
- 佐藤陽子
- 福島弘子
- 西宮中央教会
- 子供の家職員一同
- 林りえ
- 東洋英和女学院中高母の会
- 根本志保
- 石井幼稚園
- 神戸女学院中高部
- 福田加奈
- 上杉徹
- 清水美香
- 斉藤稔
- 関西学院高等部
- 民谷清
- 渡辺智明
- 神戸真生塾乳児職員一同
- 濱田栄二・理恵
- 宮永公子
- 難波美智子
- 菅根信彦
- 神戸教員合唱団
- 若林孝典
- (南)カワタリ電設
- 濱啓子
- 神戸真生塾養護職員有志  
保育園職員一同
- 上西幸之助
- 日本聾話学校
- 学校法人玉川聖学院
- 鈴木誠也
- 神戸栄光教会
- 神戸聖愛教会
- 神戸協会
- 圓句昭夫
- 神戸多聞教会
- 学校法人名古屋学院
- P & G
- B & F

「自立援助ホーム子供の家」

自立援助ホーム子供の家では、子どもの誕生日に誕生日ケーキと食事で提供されない1,000円分(海鮮丼やピザなど)の好きな食べ物を用意してお祝いします！

自立に向け、共同生活している仲間が部屋の飾りつけやケーキのデコレーションなどを全て職員と一緒にやります。

夕食後、子どもたち全員に声を掛け、Happy Birth Day!



スマホの写真アプリのSnowでポーズを決め、かわいさ増盛！  
これまで施設経験がなく、家庭で暮らしてきた子どもの中には、初めてのお祝いに戸惑いを見せますが、素敵な笑顔も見せてくれます！

原田 純



## 子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時~午後6時(緊急の場合は夜間も可)  
 神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)  
 Homepage <http://www.rotary-kodomoioie.org/>  
 facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioie>



子育てに困ったら  
 先ず電話相談!

「この近くでは双子の集まりがあまり無いんです」という一言から、『にじっこひろば』は始まりました。『にじっこひろば』は始まりました。『にじっこひろば』とは、双子や三つ子などの、多胎児を子育て中の家族を対象としたあつまりです。こ最近、双子を子育て中の家族が、当センターのプレイルームに遊びに来てくれることが多くなっていたのですが、その中で冒頭のよな言葉を耳にしました。当センターでも、子育て中の家庭に向けたプログラムをいくつか開催しています。が、多胎児のみを対象にしたプログラムはありませんでした。そこで、多胎児の育児ならではの喜びや悩み、育児の工夫などを参加者同士で共有できるように場ができればと、動き始めました。

構想から約1カ月後の8月17日、5組17名の親子が

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家  
**『あつまれ にじっこひろば』**  
 臨床心理士 谷 知純



集まり、記念すべき第1回目の『にじっこひろば』が開催されました。元気な双子ちゃんたちの可愛らしさに和やかな雰囲気となり、座談会では食事や入浴時は父母が協力して順番でそれぞれの子どもへの対応をしていることや、外で遊ぶときに双子がそれぞれ違う方向へ走って行ってしまうので大変だという話がありました。上の兄弟がいる参加者からは、しつかり者のお兄ちゃんがいてくれるので助かるという声も。最後に、このあつまりの名前を皆で一緒に考え、「二児(二人の児)」と「虹」という2つの意味をかけた『にじっこひろば』という素敵な名前がつけました。

その後は2カ月に1回、『にじっこひろば』を開催しており、参加者も増えています。3回目の開催はクリスマスが近かったので、

センターやトナカイに変身して参加してくれた双子ちゃんたちもいました。

今後は参加者から希望のあった、双子ちゃんの写真撮影会、どろんこ遊び、公園遊びなど、親と子だけでできないことも、にじっこひろばの仲間やスタッフの力を合わせて実現していきたいと思います。たくさんアイデアが溢れている『にじっこひろば』。名前を皆で一緒に決めたように、希望や意見を出し合いながら内容を充実させていきたいと考えています。

新たに始動したばかりのプログラムで、スタッフも多胎児の育児について勉強させてもらいながら、より充実したものにしていきたいと思っています。

**編集後記**

今年も皆様方に広報誌「愛」お届けできましたが子ども達は毎日変わらず活発に過ごしております。

今年も皆様方に広報誌「愛」お届けできました事嬉しく思います。今後も職員一同子ども達の成長と共に歩み、広報誌を通じてその姿をお伝えできるように励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、広報誌発刊にあたりご協力頂いた皆様、日頃よりお世話になっている皆様方へ心よりお礼申し上げます。

(菊地なつき)

**神戸真生塾苦情処理委員**

苦情受付担当者	久山 啓 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長)
	川本 真美 (真生乳児院 家庭支援専門員)
	山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主任保育士)
	有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
苦情解決責任者	上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
	敷田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
	橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
第三者委員	竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
	森光 規之 (当法人 監事)
	中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
苦情受付件数	2019年7月から2020年1月末まで 0 件